

ちょっと嬉しいニュース

尼崎市立武庫小学校長 濱田 康助

1月21日の神戸新聞夕刊の一面に、嬉しくなるニュースが載っていましたので、紹介させていただきます。

その記事の見出しは、「兵庫県 公立小に井戸整備へ」。そして、小見出しとしては、「災害避難所のトイレ対策」と書かれていました。

記事の内容は、兵庫県が、県内で避難所となる全公立小学校（避難所に指定されている小学校は、県内に約760校）を対象に、井戸を整備する方針を固め、来年度は約200校分に相当する約4000万円を来年度の当初予算に盛り込み、希望する市町に半額の補助を行う考えとのことで、来年度から順次整備を進めるようです。

井戸を設置する理由としては、ライフラインが途絶え、水洗トイレに流す水がないためにトイレが使えないことで、避難所の衛生環境が保てないといった問題を、井戸水を利用することで、解決していくとのことでした。

私は、この記事を読んで嬉しくなりました。校長として、学校という施設を預かり管理する役割を担うなか、大規模災害等が発生すれば、避難所となる学校の運営にも、一定たずさわらなければなりません。

今年は、兵庫県が被災した阪神・淡路大震災から20年目の年です。

震災により多くの尊い生命が亡くされ、多くの被災された方々が苦しく、辛い経験をされてきました。

私は、「1. 17は忘れない」の言葉のとおり、多くの犠牲になられた方々から学んだ教訓を生かしてこそ、亡くされた生命等無にせず、大切に続ける方法だと確信しています。

本校には、地域のご理解を得て、2年前に設置できた「地域の井戸」があります。



私は校長として、このたびの兵庫県の決定を嬉しく思うとともに、本校に「地域の井戸」が設置できていることを、改めて誇らしく感じています。